
平成 27 年第 1 回北栄町高校生議会会議録 (第 1 日)

平成 27 年 1 月 14 日 (水曜日)

議事日程

平成 27 年 1 月 14 日 午前 9 時 30 分開会

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
日程第 2 会期の決定
日程第 3 諸般の報告
日程第 4 一般質問
-

本日の会議に付した事件

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
日程第 2 会期の決定
日程第 3 諸般の報告
日程第 4 一般質問
-

出席議員 (15 名)

- | | | |
|-----------------|----------------|----------------|
| 1 番 岡 本 桜 君 | 2 番 古 川 京 香 君 | 3 番 橋 本 美 月 君 |
| 4 番 小 阪 竜 也 君 | 5 番 安 本 海 斗 君 | 6 番 谷 川 理 子 君 |
| 7 番 中 川 紗 治 伽 君 | 8 番 亀 本 梨 央 君 | 9 番 谷 口 涼 香 君 |
| 10 番 入 江 瑛 梨 君 | 11 番 岩 崎 万 季 君 | 12 番 亀 谷 直 輝 君 |
| 13 番 河 合 亮 祐 君 | 14 番 竹 歳 直 樹 君 | 15 番 栗 村 凌 君 |
-

欠席議員 (なし)

欠席高校生事務局員 (1 名)

横山梨紗君 (インフルエンザのため)

(北栄町議会事務局出席職員職氏名)

事務局長 田中英伸君 主任 浜本早苗君
事務補佐員 長谷川利恵君

説明のため出席した者の職氏名

町長	松本昭夫君	副町長	西尾浩一君
教育委員長	福光純一君	教育長	別本勝美君
会計管理者 (兼) 出納室長	吉田千代美君	総務課長	手嶋俊樹君
政策企画課長	谷口康彦君	税務課長	磯江昭徳君
住民生活課長	大庭由美子君	福祉課長	鎌田栄子君
健康推進課長	伊垢離順紅君	産業振興課長	手嶋寿征君
地域整備課長	吉岡正雄君	教育総務課長	西村文伸君
生涯学習課長 (兼) 中央公民館長	杉本裕史君	農業委員会事務局長	下阪啓二君

午前9時20分開会式

○事務局長（田中 英伸君） 時間になりましたので、これより高校生議会を行うにあたっての開会式をはじめさせていただきます。本日の高校生議会は、鳥取中央育英高等学校が取り組んでいる「地域探究の時間」の推進と、次世代を担う高校生に地元北栄町の町政・町議会への関心を高めてもらうとともに、開かれた北栄町議会をPRするために開催するものです。

はじめに、井上信一郎北栄町議会議長がごあいさついたします。

北栄町議会議長あいさつ

○議長（井上信一郎君） おはようございます。本日は鳥取中央育英高校横山校長先生御協力のもと、1、2年生15名の生徒の皆さんに御参加いただき本当にありがとうございます。このように盛大に、北栄町としては初めての高校生議会が開催できますことを、改めて感謝申し上げます。

昨年12月の衆議院選挙では、戦後最低の投票率となり、特に若い人たちの政治離れや無関心が問題となっております。そんな中、本日ご参加の鳥取中央育英の生徒の皆さんは、地方自治や議会に関心をもっていただき本当にありがとうございます。

先ほど、議会事務局長も初めてのことで大変緊張してあがっていたようですが、高校生議員の皆さん、町長はじめ執行部は私たち議員以上に大変やさしい人たちばかりですので、緊張するなどと言っても無理ですが、若い皆さんの視点や感覚で、安心して質問していただきたいと思っております。以上です。

○事務局長（田中 英伸君） 続きまして、北栄町長松本昭夫がごあいさついたします。

○議長（井上信一郎君） 松本町長。

北栄町長あいさつ

○町長（松本 昭夫君） 皆さんおはようございます。そして、改めまして新年あけましておめでとうございます。1月も今日で14日ということで、新年の気分はだいぶ薄れてきましたが、今日は鳥取中央育英高校の皆さんとの、初めての高校生議会ということで今日開催することになりました。これは先ほど議長からありましたように、昨年8月に北栄町と鳥取中央育英高校が、「地域探究の時間」推進に関する協約」というものを結んで、地域の実態を知って

いただく、そしてまた、皆さん方が将来地域に帰ってきて、地域に貢献するということを目標に、この協約書を作ってきたわけでありますが、その一環として今日取り組んできたわけでございます。それまでも、いろんな取り組みがあったわけでありますが、今日は高校生議会という一つの取り組みの中で、皆さん方のご意見等を伺いながら、執行部とやり取りするという事になったわけであります。

先ほどありましたが、二十歳になると選挙権が与えられます。しかし、大変20代の方の投票率が低いということがございます。しかしながらいろんな世の中の物事、あるいはルールを決めるには、やはり政治というものがこれを決めて行くこととなります。その権利がありながら参画しないということは、大変残念なことであります。そういう中であって、高校生の時から政治に関心を持ち、また地域のしていることに関心を持つということは、これから大人になって大変有意義なことになるのだらうと、こう思っています。

よく、物事を変えるには、よそ者、ばか者、そして若者と言われております。皆さん方の若い感覚で、いろんな発想をもつていただいて、地域を変える、そして地域を活性化することに今後取り組んでいただければと思うところであります。

今日は皆さん方も大変緊張されていると思います。私も初めてのことで大変緊張しているところではありますが、お互いに意見を出しあって、地域をよくしていこうということで今日1日できればと思っていますので、よろしく願いいたします。この高校生議会が、皆様にとりましてこれからの人生に大きく役立つことを願ひまして、開会のあいさつに変えさせていただきます。どうかよろしく願いいたします。

○事務局長（田中 英伸君） 続きまして、横山尚登鳥取中央育英高等学校長がごあいさついたします。

鳥取中央育英高等学校長あいさつ

○校長（横山 尚登君） 皆さん、おはようございます。鳥取中央育英高校校長の横山と申します。今日は大変お世話になります。どうぞよろしく願いいたします。昨年8月12日に“「地域探究の時間」推進に関する協約”を北栄町と本校との間で、結ぶことができました。この「地域探究の時間」という取り組みは、生徒たちが、地域の魅力や課題について探究し、そして自分が生まれ育ったこのふるさとに何ができるだろうか、そういうことを考える時間としたいと思っています。そして、やがて生徒たちは本校を卒業し、全国に巣立ち、飛び立ち、あるいはある者は世界に挑戦するかもしれません。将来どんなステージで活躍するようになったとしても、ふるさとを忘れず、そして地域のために貢献するという志を持ち続けてほしい、そのように願ってこの取り組みを行う覚悟でございます。

「地域探究の時間」は、来年度より本格的に実施をいたします。今日は高校生議会という絶好の機会、地域を理解するそういう機会を与えていただき、誠にありがとうございます。今日のこの経験が、来年度本格実施します「地域探究の時間」のいいスタートとなりますよう、高校生議員の諸君も頑張ってくださいと思います。今日はどうぞよろしく願いいたします。

○事務局長（田中 英伸君） それでは、これより高校生議会をはじめたいと思います。

○議長（井上信一郎君） 開会前に、傍聴席の皆さまへお願い申し上げます。携帯電話をお持ちの皆さんは、マナーモードもしくは電源を切ってくださいよう、よろしく願いいたします。

北栄町議会議長による、高校生議長の指名

○議長（井上信一郎君） 高校生議会の開会にあたり、議長として、15番、栗村凌君を指名いたします。なお、本日、事務局として議会運営のサポート役をしていただく予定でした横山梨紗さんが、インフルエンザのためやむなく欠席されましたことをお知らせいたします。

なお、本日は報道関係及び当局から議場での写真撮影等の申し出があり、あらかじめ許可しておりますので、御了承お願いいたします。

午前9時30分開会

○議長（栗村 凌君） ただいま、議長の指名を受けました、鳥取中央育英高校2年の栗村と言います。今日の高校生議会は、「私たち高校生の意見を、北栄町にも聞いていただきたい」という意見を、北栄町役場の方々に聞いていただき実現しました。私たちは、北栄町に毎日お世話になりながらも、何も貢献できていないのではないかと思ひ、高校生議会という場を使わせてもらって、できる限りの意見と提案をさせていただきたいと思ひます。

高校生は北栄町で生活している身でもあり、他の町から来ている観光客のような身でもあると思ひます。この2つの面から、私たちが北栄町を引っ張っていく、という気持ちで議会に臨ませていただきますので、本日はよろしくお願ひします。鳥取中央育英高校と北栄町にとって有意義な高校生議会となりますよう、皆さんの御協力をお願ひします。

○議長（栗村 凌君） それでは会議をはじめます。ただいまの出席議員は15名であります。定足数に達しておりますので、これより平成27年第1回北栄町高校生議会を開会いたします。直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配布したとおりです。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（栗村 凌君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。本会期中の会議録署名議員は、議長において、1番、岡本桜議員、2番、古川京香議員を指名いたします。

日程第2 会期の決定

○議長（栗村 凌君） 日程第2、会期の決定を議題といたします。

お諮りします。今回の会期は、本日1日としたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

〔 「異議なし」と呼ぶ者あり 〕

○議長（栗村 凌君） 御異議なしと認めます。よって、会期は、本日1日と決定いたしました。

日程第3 諸般の報告

○議長（栗村 凌君） 日程第3、諸般の報告をいたします。

本会議の出席者は、お手元に配布の資料のとおりです。

日程第4 一般質問

○議長（栗村 凌君） 日程第4、一般質問を行います。

届け出順により、順次質問を許します。

1番、岡本桜議員。

○議員（1番 岡本 桜君） 1番、岡本桜です。私は、町長へ2つの事項について質問させていただきます。

まず一つ目は、宿泊施設についてです。

観光施設はあっても、宿泊施設がなく町に留まる人が少ないと思います。宿泊施設をつくり、家族で観光に来ていただくように、コナンを主流としたテーマパークを行政や商工会でつくるのはどうでしょうか。

次に、温泉施設についてです。

鳥取市に新しく温泉付の宿泊や食堂などの施設ができ、とても賑わっていると聞いていますが、北栄町も温泉を掘って新しい宿泊施設をつくり、賑わいのある町づくりをしてみてもどうでしょうか。温泉があれば、北栄町の住民も利用できるし、地域住民の親睦も深まると思います。以上です。

○議長（栗村 凌君） 2番、古川京香議員。

○議員（2番 古川 京香君） 2番、古川京香です。私は、巨大ショッピングモールについて町長に質問させていただきます。

北栄町には大きな施設がありません。PLANT（プラント）出店のお話があるようですが、隣町が反対しているようなお話を聞いています。これでは、町の発展はありえないと思います。現実には皆、鳥取、米子にショッピングに行っているようです。北栄町だけでは無理ですが、将来「中部はひとつ！」の時代です。そんな思いがあります。そこで、倉敷にあるアウトレットパークのような大きな施設を誘致はできないでしょうか。北栄町とさらに周辺の市や町で取り組んではどうでしょうか。もしつくれたら北栄町に人が集まり、由良駅を利用する人も増えてくるので、由良駅の拡大にもつながると思います。以上です。

○議長（栗村 凌君） 3番、橋本美月議員。

○議員（3番 橋本 美月君） 3番、橋本美月です。私は、町長に観光客の集客について質問させていただきます。

ふるさと館には、近年、少しずつ外国の観光客が増えているように聞いています。ですが、国内での宣伝はまだ十分ではないのではないのでしょうか。その改善のためにTwitter（ツイッター）などのSNS（ソーシャル ネットワーキング サービス）で北栄町の宣伝をする、北栄町の魅力、観光地をピックアップしたCMやPV（プロモーションビデオ（販売促進映像））を作りYouTube（ユーチューブ）やニコニコ動画などの無料動画サイトに投稿したり、テレビ局に持ち込み放送してもらうなど、日本全国に情報が行きわたるようにする考えや動きはないのでしょうか。以上です。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） はじめに、岡本議員の御質問にお答えします。

まず、観光客のために宿泊施設をつくり、コナンを主流としたテーマパークをつくる考えはないか、との御質問です。

これまで、町では青山剛昌ふるさと館及びコナン通りを中心とした「コナンのまちづくり」を推進し、観光客誘客の取り組みを進めております。主な取り組みとしては、青山剛昌ふるさと館のオープン、コナン通りへのブロンズ像・モニュメントの設置、JR 由良駅の「コナン駅」愛称化などを行っており、国内外から多くの観光客の皆さまにお越しいただいているところでございます。また、来る3月1日には鳥取空港を「鳥取砂丘コナン空港」に愛称化することが決定されるなど、コナンに関する大きな話題もあったところでございます。

御質問の宿泊施設についてですが、青山剛昌ふるさと館にお越しの観光客の皆さまの宿泊状況について、以前行ったアンケート調査の結果を見ますと、アンケートにお答えいただいた499名中、宿泊を伴う旅行としてお越しになった方が388名、うち北栄町内に宿泊された方は9名、北栄町を除く鳥取県内に宿泊された方は240名という結果でございました。現在、コナン通り周辺には、民間で経営しておられる宿泊施設が2施設あり、コナン通りにお越しの観光客の方も利用されていると聞き及んでおりますが、アンケート結果から見ますと、町内での宿泊は観光客全体の2%に留まっている状況でございます。御指摘のとおり、現状では、町内に宿泊される方は少ない状況でございますが、お越しになる観光客の半数近くは県内に宿泊されており、またその多くはおそらく周辺市町に宿泊されている状況と推測いたしております。

現在、観光振興に当たっては、鳥取県中部圏域全体を観光エリアとした取り組みを進めており、例えば、「観光」は北栄町内で青山剛昌ふるさと館やコナン通りを楽しんでいただき、「宿泊」は周辺市町の温泉地やホテルを利用していただくなど、各市町の地域資源の特色を活かした観光客誘客の取り組みを進めているところでございます。従いまして、現時点においての地域の実情、将来見通しを踏まえた採算性、町の財政状況等を考慮した場合、町において新たに宿泊施設を建設することは考えておりません。境港市も宿泊施設がございましたが、水木しげるロードに毎年300万人前後の観光客が訪れるようになったことや、またその他の要因もあったと思いますが、民間がホテルを建設する予定になっているようであり、北栄町でもそのようになれば、民間のホテル建設等も考えられると思っております。

次にテーマパークについてであります。どのような施設を考えておられるかわかりませんが、東京ディズニーランドやUSJ（ユニバーサル スタジオ ジャパン）あるいはハウステンボスのようなものは行政ではできませんので、町といたしましては、青山剛昌ふるさと館及びコナン通り周辺が「コナンのテーマパーク」となるよう、さらなる修景整備を行い、周辺市町とも連携を図りながら、観光客の皆さまに楽しんでいただけるよう取り組みを進めてまいりたいと考えております。また、商工会において独自に宿泊施設やテーマパークの建設を考えておられるのかについては聞き及んでおりませんが、観光振興を地域への経済効果の発現につなげるためには、民間企業・団体等の取り組み及び町との連携が不可欠でございます。多くの観光客の皆さまに楽しんでいただき、さらに地域が潤い、賑わいのあるまちとするため、関係機関とも協議を進めながら取り組んでまいりたいと思っております。

次に、北栄町も温泉を掘って新しい宿泊施設をつくり、賑わいのあるまちづくりをしてみたいかどうか、との御質問でございます。

ご存じのとおり、県中部では三朝、はわい、東郷、関金といった有名温泉地があり、また御

質問にありますように、鳥取市内にも商業温泉施設などもございますが、いずれも民間企業・団体などが中心となって運営されております。

御質問の新たな温泉施設の建設につきましては、現在、町としては考えていないところでございますが、こういったレジャー施設につきましては、民間企業により建設・運営していただくのがよいのではないかと考えております。町では、温泉施設に限らず企業誘致の取り組みも進めております。民間企業の誘致や起業支援といった側面支援を行うことで、民間の柔軟な発想やアイデアを活かし、地域の活性化、賑わいの創出につなげたいと考えているところでございます。テーマパークや、宿泊・温泉施設、とても夢のある提案でございます。現時点では困難ではございますが、将来、実現が可能になるようなまちづくりを進めてまいりたいと考えているところであります。

続いて古川議員の御質問でございます。

議員仰せの倉敷市にある三井アウトレットパークは「倉敷チボリ公園」跡地の再開発事業として2011年12月に開業されました。その規模は敷地面積が約6万6,000平方メートル、商業施設面積約2万平方メートル、延床面積約3万5,000平方メートル、店舗数は約120店舗となっています。また、昨年12月には隣の岡山市に、イオンモール岡山が開業いたしました。その規模は敷地面積約4万6,000平方メートル、商業施設面積約9万2,000平方メートル、延床面積は約25万平方メートル、店舗数はイオンとそれに入店する約350の店舗という巨大な施設でございます。その他近隣には兵庫県には三田市に、また広島にも巨大なショッピングモールがございます。県内におきましては、鳥取市と日吉津村に巨大なショッピングセンター、境港市にもスーパーセンターがあります。アウトレットパークのような巨大な施設の建設には、ただ単に施設をつくれればよいというものではありません。商売をする上で、後背地がどうなっているのかを考える必要があります。まず、周辺の人口規模はどのくらいか、交通のアクセスはどうか、そして競合店の分布状況、集客範囲の予測、売上のシミュレーション、関連法案等、色々検討しなくてははいけません。そういうことを考慮してアウトレットモールが建設されております。

では北栄町を含んだ中部ではどうかということですが、人口規模でまずクリアは難しいと思いますし、交通アクセスも問題があります。また、県では大型店舗が進出してきていることにより、以前からあった中心市街地の商店街が衰退してきております。そのことにより、県の条例で、商業施設面積1万平方メートル以上の大規模な施設は認められない、ということになっているところであります。町としては、アウトレットパークのようなものは建設が困難ですので、商圈に見合った地元の商店等と共同できるようなスーパーセンター等の誘致に取り組んでまいりたいと思っております。

続いて、橋本議員の御質問にお答えいたします。

国内の宣伝のために、SNS（ソーシャル ネットワーキング サービス）での宣伝や、CM やPV（プロモーションビデオ）の作成など、日本全国に情報を行き渡らせる考え・動きはないか、とのお尋ねでございますが、御指摘のとおり、現在、SNS を利用した情報発信は、個人での利用に留まらず、企業、団体さらには政府、自治体など、その活用の幅は広がっております。町におきましても、公式 Facebook（フェイスブック）を発信し、町内の事業、イベントや各種行政情報などを更新しておりますが、他の自治体に比べて読者はまだまだ少ない状況でございます。

す。また、青山剛昌ふるさと館でも公式 Twitter（ツイッター）を使って、イベント情報やローカルな話までいろいろな話題を提供しているところがございます。行政からの情報発信は、ともすれば堅苦しい内容になることがあります。今後、多くの方に楽しんでいただけるよう、これまで以上に SNS の読者を増やしていきたいと考えておりますので、ぜひ高校生議員の皆さんからも、特に若い人たちに多く見ていただけるような工夫について、アドバイスをいただければと思っています。私といたしましても、広く北栄町のことを知っていただき、多くの観光客にお越しいただきたいと考えております。

今回御提案のあった YouTube（ユーチューブ）やニコニコ動画などの無料動画サイトを活用したプロモーションビデオ作成ですが、青山剛昌ふるさと館 PR 用動画がございますので、著作権上、これをプロモーションビデオに使えないか関係機関と協議するなど、実施に当たって今後検討してみたいと思います。これに対して、CM やテレビ放送は非常に多大な費用がかかるため、これらに町単独で積極的に取り組むことはなかなか難しいと考えております。とは申し上げましても、テレビ放送は多くの視聴者に北栄町のことを知っていただく非常に有効な手段と考えております。著作権等の問題もあるため関係機関との十分な協議が必要でございますが、テレビ放送の観光情報発信コーナーでイベント企画や話題性のある企画を取り上げてもらうなど、これからもできる限り有効に活用させていただき、北栄町の魅力や、観光客の誘客に取り組んでいきたいと考えております。その他、御提案のような SNS やテレビ放送だけでなく、県外の多くの人が行き交う場所での観光・特産物 PR など有効な手段だと考えております。

平成 25 年 3 月に全線無料の松江自動車道が開通いたしました。開通以降の観光客データによると、広島方面からの観光客が増加している傾向が見受けられます。さらに今年 3 月末には尾道自動車道も開通する予定となっており、これから山陽・四国方面からの観光客増加も非常に期待されるところでございますので、今後、県外的高速道路 SA・PA、道の駅などでの PR 活動にも力を注いでまいりたいと考えております。また、昨年の「コナン駅」、今年の「鳥取砂丘コナン空港」と、コナンにちなんだ交通拠点が相次いで誕生しております。これらの交通拠点での集客イベントなどについても、引き続き、県など関係機関と連携して PR 活動を行っていききたいと思います。さらに、県外の大規模集客施設などにおいても、青山剛昌ふるさと館 PR 用 DVD も活用して、ふるさと館の新たな展示内容やコナン駅をはじめとするコナン通りの新たな魅力などを多くの方々に知っていただけるよう努めてまいりたいと思っています。

○議長（栗村 凌君） 岡本桜議員。

○議員（1 番 岡本 桜君） 宿泊施設について、追加質問をさせていただきます。

観光客は北栄町ではなく、周辺の地域に泊まるような流れがあると言われましたが、北栄町で観光された方には、ぜひ北栄町に宿泊してもらいたいと思います。例えば、大きなスペースを使わなくても、空き家を有効利用して民宿などをするのはどうでしょうか。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） 岡本議員の御質問にお答えいたします。

確かに、北栄町に来ていただいて北栄町に泊まっただけとなれば、大変経済的な効果もありますし、またより一層北栄町の魅力も知っていただけるものだろうと、こう思っております。現在、そのような施設はないわけですが、今後そういうものも考える必要がある

のではないかと考えております。ただ、お金を取って泊めるということになれば、旅館業というような許可も必要となってきます。あるいはまた、整備するお金も必要となってきますので、そういうことも考慮しながら今後検討してまいりたいと、こう考えております。

○議長（栗村 凌君） 岡本桜議員。

○議員（1番 岡本 桜君） 宿泊施設についての質問は終わります。

次に、温泉施設についての追加質問をさせていただきます。

温泉施設をつくる予定はないと言われましたが、実際に、昔は温泉施設があり、つくれないことはないと思います。現在、高齢化が進んでいて高齢者も多くいます。そんな方たちでも、気軽に利用していただくためには、やはり北栄町に温泉施設をつくるほうがよいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） 確かに、以前温泉施設がございました。ただ、温泉としての機能が少し低いということで、要するに温度が低かったということで、たきながら温泉を使っていたということでもあります。ただ、そういう施設をつくって、経営的にどうなるのかということもあると思いますし、また、それを行政がするものかどうかということもあるわけでありませう。やはり、それは民間の方が、経営的なノウハウを持った方々がされるのが筋だろうと、こう思っておるところであります。確かに、隣の市や町には温泉施設があるわけでありませう。掘って、北栄町も出ないということはないと思いますが、そのような状況であったということでございませうので、町としては、そういう施設をつくるということは難しいかと思いますが、やはり民間の力を借りながら、そういうことをやりたいというところがあれば、支援をしていきたいと考えております。

○議長（栗村 凌君） 岡本桜議員。

○議員（1番 岡本 桜君） これで温泉施設についての質問は終わります。

○議長（栗村 凌君） 古川京香議員。

○議員（2番 古川 京香君） 巨大ショッピングモールをつくるのは難しい、と町長は答弁されましたが、総合的に何をすれば北栄町が賑わうか考えると、施設ショッピングモールの中に直売所、ホール、ダンスホール、町民が集う広場、食堂、加工施設など、投資は大きいですが、今やるべきだと思います。以上です。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） アウトレットモールの中にダンスホールであったり、加工施設であったりとかも入れてはどうか、ということですが、そもそも、先ほど言いましたように県の条例上、そのような大きなものはできないと、大型店舗が設置できないということになっているところでありませうして、その中であって、そういうものも一緒につくるということになれば、かなり大きくなるのだらうと思っておるところであります。県にも、今、そういうものを撤廃して、やはり一つのところが栄えるのではなく、いろんなところが栄えるようにということで、条例の見直しをお願いしているところでありませう。そういうことができれば、もう少し大きなものもできるのだらうと思っておりますが、それをつくっても、今度は地元の商店等がかなり影響を受けてくるということになるわけでありませう。それを行政が積極的につくってするということができれば、地元の今ある商店、お店屋さんが衰退していつてしまい、大変困られる

ということになりますので、やはり、それは業者の方が出したいという中でつくっていただくということが必要だと、こう思っているところであります。大変難しい問題を含んでいるところではありますが、そういうものがくれば町自体も賑やかになると思います。いろんな問題も含んでいるということで、それをクリアしてやっていかなければならないということにして、大変難しい面があるわけですが、しかし、議員仰せのとおり、そういう核となる店舗が一つできれば、大変その地域も賑わってくるだろうと思っているところであります。そういうことをクリアしながら、北栄町でできるものを、一致して行っていきたいなと思っております。

○議長（栗村 凌君） 古川京香議員。

○議員（2番 古川 京香君） 以上で巨大ショッピングモールについての追加質問は終わります。

○議長（栗村 凌君） 橋本美月議員。

○議員（3番 橋本 美月君） 観光客の集客について追加質問させていただきます。

コナン大橋からふるさと館の間、もっと大きな樹木を植え、昼はゆっくり、夜はイルミネーションなど、さらに、月に1度イベントを計画して、県道を歩行者天国として提供するのはいかがでしょうか。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） 大変に夢のある提案だと思います。ふるさと館からコナン大橋まで、どちらかといえば殺風景な感じの景色になるわけであり、そこにもう少し樹木を植えれば、日差しを避けたり、風よけになったり、そういうことも思いますし、またイルミネーション等すれば、一段とコナン通りが輝いてくるのだらうと思っているところであります。またホコテン、歩行者天国にするということになれば、そこは県道になっておりまして県の許可を取らなければならないわけでありまして。歩行者天国の中でいろんなイベントができれば、多くの方が来ていただけるということにもなろうかと思っておりますので、それは県等と協議しながら考えてみたいなと思っております。樹木等についても、すぐにできるかどうか今のところは考えてないところであります。やはり通りの中でも楽しんでいただけるようなことを今後考えていって、来られた方に喜んでいただく取り組みを進めてまいりたいと思っております。

○議長（栗村 凌君） 橋本美月議員。

○議員（3番 橋本 美月君） わかりました。

さらに、ボランティアで案内ガイドをつくる考えはありますか。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） ボランティアで案内ガイドということではありますが、そういうことも考えているところでありまして、今後そういう方たちを募って、まず勉強していただいて、そして北栄町のことを案内できるように、そしてコナンのことが案内できるように取り組みを進めてまいりたいと思っております。大変いい提案だと思いますので取り組んでまいりたいと思っております。

○議長（栗村 凌君） 橋本美月議員。

○議員（3番 橋本 美月君） これで観光客の集客についての追加質問を終わります。

以上で私たちの質問は終わります。

○議長（栗村 凌君） 以上で岡本桜議員、古川京香議員、橋本美月議員の一般質問は終わります。次に進みます。

○議長（栗村 凌君） 4番、小阪竜也議員。

○議員（4番 小阪 竜也君） 4番、小阪竜也です。僕は、町長に2つの事項について質問させていただきます。

まず一つ目は、移住・定住の促進についてです。

人口減少は今や全国的に大きな社会問題となっており、中でも地方においては、若者の県外流出に歯止めがかからず、より深刻な状況になりつつあります。移住・定住の促進、県外流出に歯止めをかけるには、安全・安心して、北栄町で暮らせる環境を作ることが重要な要件だと考えます。僕なら、運動会などの地域交流をすることで北栄町民一人一人が仲良くなり、定住者が増えると思いますかどう思いますか。

次に、老後、安心して生活できる環境についてです。

北栄町には、空き地、空いた畑が多いと思うので有効活用すればよいと思います。空いた畑は、農業試験場があるので、スイカ、長いもだけでなく、特産物を増やしていけば、人も増えてくると思います。地域の人々と協力して実際に農作業を体験してもらいます。例として、夏はスイカ、秋から冬にかけては果物、長いもなどです。北栄町の良さを都会の人にPRするには、農家の方々の家にホームステイして、農家の方々の生活を身近で体験してもらうとともに、北栄町の空気、水のおいしさを実感してもらうとよいと思います。そのために、町がホームステイ可能な家をリフォームして、その補助を出します。そして、興味を持っていた人に、安い値段で提供すればよいと思います。さらに、10年住めば無償で家を提供するなどがあれば、人口増加にもつながりよいと思いますがどう思われますか。以上で終わります。

○議長（栗村 凌君） 5番、安本海斗議員。

○議員（5番 安本 海斗君） 大企業の誘致と、子育て支援について、町長に質問します。

北栄町にある農業試験場と協力して、新しい企業を誘致してはどうでしょうか。今の鳥取県にない、自然の食品を加工したり、研究したりしている企業に来てもらうことで、新たな職場を作ることができます。そうすることで県外からの移住・定住者を増やすことはどうでしょうか。

次に、子育て支援について質問します。

子どもが生まれると、育児と仕事の両立が困難になり、精神的、肉体的にも負担が大きくなるしかかってきます。そのため職場における子育て支援は、どのようなことができると考えているのか伺います。

また、子どもから大人まで楽しめる場所についてです。今の北栄町には、海水浴場など、海があるのに遊ぶ場所がありません。また、レークサイド大栄にある遊具をお台場に移動して、みんなが楽しめる場所を人口の多い場所に近づけることは可能でしょうか。また、移動後はブラックバス釣り、ボートなどのレジャー施設をつくることはどうでしょうか。以上です。

○議長（栗村 凌君） 執行部の方をお願いします。1グループはおおむね25分の持ち時間となっておりますので、初めの答弁をもう少し短くお願いします。

松本町長。

○町長（松本 昭夫君） 小阪議員のご質問にお答えいたします。

まず、安全・安心して北栄町で暮らせる環境づくりについての御質問でございます。

御質問にあるとおり、移住・定住の促進、若者の県外流出への歯止めのために、安全・安心して北栄町で暮らせる環境をつくるには、まずは「雇用の場の創出・確保」など、若者や移住者が地元で生活できる基盤が必要不可欠であると考えております。地方において「雇用の場の創出・確保」を目指すためには、現在の極端な都会一極集中の社会構造・流れの是正が必要でございます。国は、このたびの地方創生に関する総合戦略の中で、都会に所在している企業・事業所の地方への移転、さらに地方での創業を支援・促進させるような施策に取り組むことがうたわれております。町としては、さらなる施策として、地方企業への税率軽減など地方企業を優遇する税制上の取り組みをぜひお願いしたいと思っております。また、県におきしても、県内への企業誘致等していただくように、取り組んでいただくことを求めていると考えております。

町の取り組みとしては、お試し住宅の整備、地域おこし協力隊の設置、県外での移住相談会への参加、若い方が住みやすい子育て環境の整備など各種施策に取り組んでおります。また、今年度に入って人口減少対策会議や若手職員との意見交換などを行っており、移住・定住について、住まい・子育て支援・産業などの各分野について、来年度当初予算案に盛り込むよう庁内に指示しております。いずれにいたしましても、北栄町に移住していただく、また定住していただくことが大切でありますので、北栄町が得意といたします農業、環境、エネルギー、子育て支援、観光振興など町として誇れるものを十分に活用しながら、北栄町の魅力向上や「住みたい、暮らしたい」と思われるようなまちづくりに力を尽くしてまいりたいと思っております。

次に、老後、安心して生活できる環境についての御質問です。

空き地が増えてきていますが、北栄町には、合計2, 220ヘクタールの農地があります。そのうち約101ヘクタールの空き農地があるということでございます。この空き農地を有効活用していただける農地の借り手を増やすことが必要だと考えております。北栄町は県下でもトップクラスの農業の町であります。特産物も大栗スイカをはじめ、長いも、ねばりっこ、ブドウ、ラッキョウ、ブロッコリー、ハウレンソウとたくさんあります。また、新規就農者も県下でも多いほうです。県園芸試験場や農業改良普及所等の研究による品種改良等により高品質の作物を安定的に提供できる環境が整っており、国内のみならず、海外を含む販路の拡大も行ってきております。しかし、生産量が、国内市場の要望があるにもかかわらず追いついていないのも現状であります。意欲のある元気な農業者、また移住して来られた方、定住される方にこれらの耕作放棄されている土地をうまく活用していただき、空き農地の解消に努めているところです。

また、北栄町の良さを都会の人にPRするために、農家の方々の家にホームステイして、農家の生活を身近に感じてもらうとともに、北栄町の空気、水のおいしさを実感してもらおうという取り組みですが、すでに北栄町では、平成24年1月よりグリーンツーリズム研究会が発足して同様の取り組みについて活動をしておられます。この取り組みをさらに進め、より多くの方に北栄町に来ていただくためには解決しなければならないいくつかの課題があると考えています。その一つがホームステイのできる施設の確保です。この課題を解決する方法として、小阪議員ご提案のホームステイ可能な家をリフォームし、受け入れをしていただいた方に対し

てリフォーム資金等を助成していくといったことも、一つの有効な手段であると考えているところでもあります。

またそのほかにも北栄町では、主に県外からの移住を検討している方の受け入れのための「お試し住宅」を平成27年4月にオープンさせる予定です。短期間北栄町に滞在していただき比較的安価な料金を、北栄町での生活体験をしていただき、移住のきっかけづくりの場を提供していこうと考えています。現在、北栄町には200件近い空き家があります。こうした空き家の活用についても移住を検討されている方にどのように情報提供し、移住などにつなげることができないか検討を進めてまいりたいと思います。

また、北栄町の農業を強くPRし農業の魅力を伝え、北栄町に住んでよかった、今も老後も安心して生活のできる環境はやっぱり北栄町にしかないと思える町づくりを行ってまいりたいと思います。

続いて、安本議員の御質問にお答えいたします。

はじめに、大企業の誘致についての御質問です。

現在、鳥取県内に本社機能を置く1部上場企業といわれる大企業はわずかしかなかったりありません。県内の大手といわれる企業のほとんどが、支社や製造工場、研究施設など分社機能であります。そうした中、就職したい人の価値観は、給料が高い、永年雇用などの大手思考から、地方や場合によっては海外など、働きやすさや、やりがいを求め自分を活かす中小企業や研究施設などへと変化しつつあり、自らのキャリアを磨くことを仕事の第一義に置く若者が増えています。また、大企業を誘致したとしても、雇用のミスマッチが起こることが懸念されています。「鳥取県にないもの」を求めるのではなく、「鳥取県にしかないもの」オンリーワンを持つ企業に、雇用の場が移りはじめているのです。

また、都会に出た若者や就職を希望する高校生の中には、地元就職希望者が約7割以上と高い比率を示していることも承知しております。

安本議員御指摘の、ここにしかない食材、農産物などの特産を活用した自然食品の加工施設や、この鳥取県の環境などを活用した研究施設は、今まさに若者が求める雇用の場となり得るのではないのでしょうか。特に、北栄町は農産物の豊富な町です。I・J・Uターン者や、若者の雇用の受け皿づくりとして、先進的な施設の視察を行うなど、北栄町に適した企業、施設の誘致について、県やJA、その他関係機関とも連携し、よりいっそう研究を進めてまいりたいと考えています。

次に子育て支援についてでございます。

はじめに、育児と仕事の両立のために職場における子育て支援はどのような事が出来るかとの御質問です。

職場における子育て支援についてですが、鳥取県が最も子育てしやすく住みやすい地域として、世代を超え受け継がれるようになるため、昨年「子育て王国とっとり条例」を制定しております。条例には県及び市町村の責務並びに事業主等の役割を定め、連携し子育て支援をする事としております。町としては、町内企業の事業者の方に対し職場における子育て支援、例えば育児休業取得促進などの協力要請を行っているところです。

また、町としても仕事と子育ての両立を支援し、安心して子育てができるよう各種の施策を展開しております。具体的な施策としては、①保育所・子ども園に入園していない家庭の子育

ての不安や悩みの相談ができる『子育て支援センター』、②保育所、子ども園において就労する保護者を支援する『延長保育、土曜日午後保育』、③保護者が仕事や病気、急な用事等の時に一時的に乳幼児を預かる『一時保育』、④日曜日、祝日に仕事や家庭の都合で保育できない場合に乳幼児を一時的に預かり保育を行う『休日保育』、⑤病気の児童や、病気の回復期にある小学校3年生までの児童を受け入れる『病児・病後児保育』、⑥保育所、塾などの送迎、急用の時の預かりを相互扶助の会員制で行う『ファミリー・サポート・センター』、⑦小学生では昼間勤務等で保護者のいない家庭の児童を対象に放課後、土曜日、長期休業中に安全な生活の場となる『放課後児童クラブ』などを行い、働いておられる親だけではなく、在宅で子育てしておられる家庭も含め、全ての子育て世代の育児支援に努めています。

次に、働く親が安心して子どもを預けられる場所の確保についてでございます。

北栄町には現在、保育園、幼稚園機能をもつ施設として公立の認定こども園が3園、公立の保育園が1園、私立の保育園が2園あります。現在、待機児童もなく、また保育料についても子育て世代の負担をできるだけ軽減できるよう努めているところです。引き続き、子育て支援策については検討を進め、大企業を誘致した際には保育園、幼稚園施設や託児施設などを併設していただくよう企業側に働きかけなど行っていき、子育てしながら働きやすい環境の整備に努めてまいりたいと考えています。

また、子どもから大人まで楽しめる場所について、レークサイド大栄にある遊具を人口の多い場所にあるお台場に移動してはどうか、との御質問でございます。

御承知のとおり、レークサイド大栄は、豊かな自然に囲まれた西高尾ダム湖のほとりに誕生した子どもから大人まで楽しめるレジャー施設で、グラウンドゴルフ専用コースや各種遊具などがございます。また、お台場公園は、史跡「由良台場」の東側に町民のふれあいの場として整備され、多目的広場、全天候型テニスコート、ゲートボール場、それにアスレチックヤードのある子供広場、キャンプ場を有し、気軽に楽しめる公園として県内から多くの人々が訪れていただいております、それぞれの機能を果たしているものと考えているところでございます。

また、海の利用につきましては、北栄町地域は遊泳禁止地域になっておりまして、なかなか海洋レジャーができないという欠点もあり、海を使つての観光というのは難しいかと思っておりますが、地引網等ありますので、それを活用していただければと思っております。

また、西高尾ダムでのブラックバス釣り等につきましても、農業用ダムということで大変難しくなっているところです。町といたしましては、レークサイド大栄の遊具をお台場公園に移設するなどの遊具の集約につきましては考えていないところであります。

また、名探偵コナンなどのキャラクターの活用については「名探偵コナンに会えるまち」のPRにもつながることから今後も取り組んでいきたいと考えているところであります。

○議長（栗村 凌君） 小阪竜也議員。

○議員（4番 小阪 竜也君） 老後、安心して生活できる環境について、追加質問させていただきます。

農業試験場だけでなく、鳥取大学、鳥取環境大学と連携することはできないでしょうか。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） 鳥取環境大学等と連携できないかということですが、現在も連携しておりまして、特に環境問題については以前からずっと連携しながら環境政策等取り組

んでいるところですし、また、以前、とっとり総研というシンクタンクがあったわけですが、今、鳥取環境大学に移って、そこでいろいろ事業をされておりますが、そういうシンクタンクとも町の課題等お話ししながら、どういうまちづくりができるか、あるいはコナンのまちづくり等も研究していただいているということで、一緒になって取り組んでいるところであります。また、いろんな町の課題等もあるので、できるものは鳥取大学であったり、鳥取環境大学、さらには鳥取短期大学、そういう学研の意見もお聞きしながらやっていくことが必要だろうと思っていますので、今後も取り進めてまいりたいと、こう思っております。

○議長（栗村 凌君） 小阪竜也議員。

○議員（4番 小阪 竜也君） これで、老後、安心して生活できる環境についての追加質問は終わります。

○議長（栗村 凌君） 安本海斗議員。

○議員（5番 安本 海斗君） 子育て支援について追加質問します。

子育て支援で具体的に子育てにかかる費用を町が負担する。町が実際に企業誘致することができたら、その環境をつくりやすいよう企業に見本になってもらうようお願いすることはできるでしょうか。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） 企業誘致して、働く方がそこに子どもを預けるということになれば、働く方も大変便利になるわけでありまして、また、企業としても「価値」というものが上がってくるだろうと思っております。この企業は子育てに一生懸命になっているぞということが、企業の商売ごと以上に、そういうことがあれば企業の値打ちを上げてくるものだと思っております。特に今、人口減が叫ばれているので、子育て支援をしている企業だということになれば、大変有益になるだろうと、こう思っております。

○議長（栗村 凌君） 安本海斗議員。

○議員（5番 安本 海斗君） 以上で子育て支援についての質問は終わります。

以上で僕たちの質問は終わります。

○議長（栗村 凌君） 以上で小阪竜也議員、安本海斗議員の一般質問は終わります。

次に進みます。

○議長（栗村 凌君） 6番、谷川理子議員。

○議員（6番 谷川 理子君） 6番、谷川理子です。私は、町長に福祉にやさしい町づくりについて質問させていただきます。

北栄町が福祉にやさしい町になるために、町民が基本的な手話ができるようになるというのはどうでしょうか。そのためには、駅周辺のお店や由良駅など人の集まる場所に、手話のポスターを貼って関心をもってもらったり、手話や福祉をテーマにしたドラマ、あるいは映画をつくるのはどうでしょうか。例えば、他の地域では福祉がテーマではないのですが、三朝町では恋谷橋など、東郷や赤碕で撮影された韓国ドラマ「アテナ：戦争の女神」があるように、北栄町でもやってみてはどうでしょうか。有名な人に出演してもらうことで、全国に北栄町のPRができると思います。以上です。

○議長（栗村 凌君） 7番、中川紗治伽議員。

○議員（7番 中川 紗治伽君） 7番、中川紗治伽です。私は、町長に観光客にやさしい町づくりについて質問させていただきます。

バス停を増やし、「ぐるり100円バス」を計画し、スタートを「由良駅」、次のバス停が「青山剛昌ふるさと館」、次に「フルーツ狩り」、次に「東宝」、また「由良駅」に戻ってきます。このようなルートでバス停を設置します。例えば、小中高学生が利用するなら、育英裏の道路沿いのスペースにバス停を設け、生徒が安全に登下校できるようにするのはどうでしょうか。町がもっているマイクロバスに、コナンのイラストを付けて行えば費用の削減にもなり、PRアニメのコナンのイラストを付ければそのバスを見る人々に広がっていくと思います。以上です。

○議長（栗村 凌君） 8番、亀本梨央議員。

○議員（8番 亀本 梨央君） 8番、亀本梨央です。私は、環境にやさしい町づくりについて町長に質問させていただきます。

中海海岸や、浦富海岸、白兔海岸のように、高校生と地域の方々と一緒に、海など一斉清掃をすることによって、環境にもやさしくなり、交流することで顔見知りになって防犯になるので、誰でも安心して暮らせる町になると思うのですがどうでしょうか。

また、風車の下の空いた土地に、ソーラーパネルを置くなどやってみるのはどうでしょうか。以上です。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） はじめに、谷川議員の御質問にお答えいたします。

福祉にやさしいまちづくりについて、町民が日常的に手話ができるようにするための手法についての御質問でございます。

御承知のとおり、鳥取県では、平成25年10月に全国で初めて「鳥取県手話言語条例」が制定されました。これは、障がい者への理解と共生を県民運動として推進する、あいサポート運動の発祥の地である鳥取県が率先しての取り組みでございます。ろう者の人権が尊重され、手話が言語であるとの認識に基づき、手話の普及に関し基本理念を定め、県、市町村、県民及び事業者の責務及び役割を明らかにするとともに、手話の普及のための施策の総合的かつ計画的な推進に必要な基本事項を定め、ろう者と聞こえる者が互いを理解し共生することのできる地域社会を実現することを目指しています。

議員御提案の取り組みについて、先ず、手話をテーマにしたドラマ制作についてでございますが、大栄手話サークルの方々が昨年12月に「中部障がいフォーラム」において、手話劇を発表されました。これをもとに、大栄手話サークルのメンバー、鳥取中央育英高等学校生徒のみなさんや町民有志による出演で、TCCへ撮影収録を委託して制作することも可能でありますので、実施に向けて考えていきます。また、すでに放映された手話をテーマにした優れた作品や、高校生などが共感できる内容の作品鑑賞会などの機会をつくることも考えてみたいと思います。

次に、駅前など人が集まるところに、手話啓発のポスターを貼り、地域の方々に関心を持っていただく取り組みについてですが、こちらもポスター作製においては、鳥取中央育英高校の生徒の皆さま、手話サークルの方々、そのほか賛同される町民により合同制作をしていただくことはどうでしょうか。ろう者と聞こえる人が、交流の機会を持つことでお互いを理解するよ

い機会にもなると考えます。

昨年は、全国の高校生が手話を使って様々なパフォーマンスを繰り広げ、表現力を競う「手話パフォーマンス甲子園」が全国で初めて鳥取県で開催され、成功裏に終えたことはご存じのことと思います。この大会では、全国各地の高校生が手話を使ったダンスや歌唱、演劇やコント等で、パフォーマンスを通じた交流の成果はもちろん、県民にも周知啓発が図られたところでございます。来年度もこの取り組みは実施予定ですので、今度はぜひ参加していただき、鳥取中央育英高校の生徒の皆さんの取り組みを通して「福祉にやさしい町づくり」を推進する北栄町をおおいにPRしていただければと思います。

このような活動のほかに、県民には手話を学べる機会の確保、手話通訳者等の確保、養成、手話技術向上の取り組み、また学校教育で利用できる学習手引書の作成配布については皆さんが手にされ御承知のところであろうと思います。高校生の皆さんが積極的に障がいのある人との交流や触れ合いを深めていただき、お互いが尊重し支え合い生きていく共生社会の実現に一步でもつながっていくことは本町の目標の一つである「えがおのまちづくり」の推進に大きな力となります。谷川議員の積極的なご提案については大変心強く、頼もしく感じているところでございます。

また先ほど、有名スポットの中で有名人を使ってPRしてはどうか、ということでもございましたが、北栄町にはコナンという大変すばらしいキャラクターがあります。その作中に北栄町を描いていただくとか、あるいは出演させていただくということも北栄町をPRする大きな力になると思いますので、そういうことも考えてまいりたいと考えております。

続いて、中川議員の御質問にお答えいたします。

観光客を対象にした町内循環100円バスや、安全な登下校のためのバス路線を計画してはどうかとの御質問でございます。

まず、今回御提案の町内循環100円バスは、主にJR・路線バスなどの公共交通機関を利用して来町された観光客がメインとなると考えられますが、例えば青山剛昌ふるさと館来館者の多くは自家用車を利用して来ておられるようでございます。また、既に100円バスを実施している他の自治体の状況等を見ても、運賃収入に比べて非常に多額の運行経費を要しているのが実情でございます。以上のことから、御提案の町内循環100円バスの運行実施は、費用対効果等の面から考えて非常に難しいと考えております。

なお、本町の交通施策としましては、西高尾駐車場からJR由良駅を経由して青山剛昌ふるさと館を区間とする「乗りあいタクシー」を運行しており、1日に往復5便の運行ではありますが、1回の乗車につき大人200円、子ども100円でどなたでも利用できるものでございます。運行に当たっては事前予約方式をとっており、空車で運行することがないことから効率的かつ経済的な運行形態となっています。また、3月からコナン通りにおけるタクシー利用料を助成することも検討しております。この制度は、3月1日に鳥取空港が「鳥取砂丘コナン空港」になることから、観光客の方にJR由良駅から青山剛昌ふるさと館の区間においてタクシーを利用される場合に300円で乗車できるもので、先に述べました乗りあいタクシーと比較して運行ダイヤにとらわれないため、自由な時間に利用できるように考えているところであります。

また、小中学生・高校生の登下校についてですが、町内の小中学生につきましては学校から

離れた自治会に住む児童・生徒を対象に登下校時にスクールバスを運行しているところであり、安全で効率的に児童・生徒の登下校を支援しているところがございます。高校生の通学につきましては、鳥取中央育英高校が JR 由良駅や路線バスの停留所に比較的近いことから、徒歩・自転車以外であれば JR 又は路線バスを利用されている場合が多いと思われまゝ。特に路線バスは、町民の重要な生活交通手段となっている一方で利用者が少なく、本町から路線バス運行維持のために既に年間約 1, 0 0 0 万円を補助しているところでもあります。路線バス事業者におかれども、利用者の利便性と採算性を考えて現在のバス路線・停留所に落ち着いてきたのだと思われまゝ。以上のとおり、新たにバスの発着点を設定することは難しいとは思いますが、鳥取中央育英高校の生徒の皆さんにおかれましても、環境への配慮の点も含めて、これら路線バスをご利用いただくようお願いするとともに、町といたしましても路線バスをはじめとした公共交通機関の運行路線並びに運行ダイヤを広く周知することで、利用促進にもつなげていきたいと考えています。

続いて、亀本議員の御質問にお答えいたします。

環境にやさしい町づくりについての御質問でございます。

はじめに、地域の方との清掃活動を通じて交流を図ることが防犯につながり、誰でも安心して暮らせる町になるのではとの御質問でございます。

町からは各自治会に、春と秋の年 2 回、町内一斉クリーン作戦として清掃活動をお願いしております。実施の方法は各自治会で違いますが、子ども会や生徒会なども一緒になって取り組んでおられるところもございます。その他、各自治会の子ども会や生徒会、老人クラブなどが、カンや雑誌・新聞などの再生資源回収を行っておられますし、海岸や河川の清掃活動も実施されています。また、由良川の草刈りであったり、コナン通りの草取り、清掃等もボランティアの方を中心に定期的に行われております。亀本議員仰せのとおり、地域の活動に世代を超えて多くの方が参加することができれば、お互いが顔なじみとなり、出会った時には声が掛け合えますし、反対に知らない人がいれば不審に思うことが出来、防犯対策にも繋がります。また、万が一災害が起きた場合でも助け合いが出来る、本当に安全で安心な町になると思えます。高校生ともないますと、地域の行事に参加する時間がなかなか取れないのかも知れませんが、こういった清掃活動などの機会を捉えてぜひ参加していただきたいと思えます。

次に、空いた土地にソーラーパネルを置くなどしてはどうかとの御質問でございます。

太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの普及は、地球温暖化対策を進める上で非常に重要です。平成 2 4 年 7 月から始まった固定価格買取制度、これは「太陽光」や「風力」といった再生可能エネルギーで発電された電気を、電力会社が一定の期間、一定の価格で買い取る制度でございます。これにより、全国的にも個人住宅への設置やメガソーラーといった大規模太陽光発電の設置が進んでまいりました。個人所有の空き地となれば、所有者の許可や賃借料などが必要となってきますので、町が設置することは現実的には難しいと思えますが、町内でも個人や民間事業者による太陽光パネルの設置が進んでいますので、今後も期待するものがございます。町有地ならどうかと申しますと、先ほど説明しました固定価格買取制度では、1 0 年間ないし 2 0 年間の買取価格が保障されています。つまり、その間は他の利用が出来ないということになりますので、太陽光パネルを設置する際には、その土地をどのように活用するの

が良いのかを十分検討する必要があります。有効的な活用が見込めない町有地については、発電業者に土地をお貸しする事業を実施しておりますが、現在、高千穂で「北栄高千穂太陽光発電所」が稼働していますが、その他に大規模太陽光の設置に適する町有地はありません。今後は防災の観点からも、公共施設の屋根への設置等を検討して、環境にやさしい町づくりをしていきたいと考えております。

また、風車の下に設置してはどうかということですが、大変狭い土地であり、作業等もありますので、風車の下にソーラーパネルを置くことはできないと思っていますところであり

○議長（栗村 凌君） 谷川理子議員。

○議員（6番 谷川 理子君） 福祉にやさしい町づくりについて、追加質問させていただきます。

北栄町はコナンも有名なので、もし映画やドラマなどが難しいようでしたら、コナンのアニメで手話をテーマにしたものを作成してもらるか、コナンのポスターをつくってもらうのはどうでしょうか。以上です。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） 手話をテーマとした作品等も考えられるだろうと、こう思いますし、また、ポスター等もお願いしてもいいわけですが、著作権等いろいろなことがございますので、小学館なり、小プロと協議していくことになろうかと思えます。そうやってコナンを使ってPRしていくということになれば、より多くの方が手話に興味をもついただけるので、考えてみたいと思っています。

○議長（栗村 凌君） 谷川理子議員。

○議員（6番 谷川 理子君） 以上で、福祉にやさしい町づくりについての追加質問を終わります。

○議長（栗村 凌君） 中川紗冶伽議員。

○議員（7番 中川 紗冶伽君） 観光客にやさしい町づくりについて追加質問させていただきます。

お金の面で問題があると思いますが、まずは観光客を増やしていき、たくさんの人にこの北栄町を知ってもらうことが大切だと思います。期間限定や、お試しで行ってみるといったのはどうでしょうか。以上です。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） 期間限定でバスを走らせてみてはということですが、実は3月1日に「鳥取砂丘コナン空港」ということで新しくオープンするわけですが、期間限定、まさにその日に、鳥取空港から直接北栄町においでいただくということで、町のマイクロ等を使って、観光客を誘致していこうと考えているところですが、またこの4月からJRを利用して、コナンのミステリーツアーというのがあります。京阪神からたくさんのお客様が来られると思いますので、そういう方たちのためにバスを走らせるということも、今考えているところでもありますので、期間限定の中で、どの程度利用されるのかということも今後検討しながら、常時必要なのか、期間限定でいいのかということも考えてみたいと思っています。

○議長（栗村 凌君） 中川紗冶伽議員。

○議員（7番 中川 紗冶伽君） 以上で、観光客にやさしい町づくりについての追加質問を終わります。

○議長（栗村 凌君） 亀本梨央議員。

○議員（8番 亀本 梨央君） 私は、環境にやさしい町づくりについて追加質問させていただきます。

遊泳は出来なくとも、海岸を使って、地引網体験以外に花火大会、夏限定特産物市場など多種多彩なイベントを行ってみてはどうでしょうか。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） 現在、北栄町の海岸は、議員仰せのとおり遊泳禁止区域になっておりまして、なかなか海洋レジャーができないという状況ですが、地引網はかなりたくさんの網元といますか、される地区もありますから、PRしてたくさんの人に来ていただいて地引網をして楽しんでいただくことも考えてまいりたいと思いますし、花火大会も北栄砂丘まつりの中でやっているわけでありまして。これをしょっちゅうするということになれば、大変な経費もかなり掛かるわけで、夏の風物詩としてまつりの中で楽しんでいただくということをお願いしたいなと思っております。なかなか海が活用できないということで、豊かな自然があるわけですが、活用できていないということで大変残念に思っているところでありまして、何とか活用できるような方策を、皆さん方からいろんなアイデアを出していただいて、泳げないけどこういうことをしてはどうかと御提案していただければと、こう思います。

○議長（栗村 凌君） 亀本梨央議員。

○議員（8番 亀本 梨央君） 以上で、環境にやさしい町づくりについての追加質問を終わります。

以上で私たちの質問は終わります。

○議長（栗村 凌君） 以上で谷川理子議員、中川紗冶伽議員、亀本梨央議員の一般質問は終わります。

しばらく休憩します。（午前10時45分休憩）

○議長（栗村 凌君） 休憩前に引き続き再開します。（午前10時50分再開）

9番、谷口涼香議員。

○議員（9番 谷口 涼香君） 9番、谷口涼香です。私は、ソフトボール部練習場拡大について町長に質問させていただきます。

ソフトボール部は1つのグラウンドを男女共同で使用し練習しているため、外野が重なってお互い危ない思いをしています。北栄町のどこか空いている土地を使って、定期的に大きな大会を開催できるような施設をつくり、育英のソフトボール部がある程度管理しながら練習できるようなシステムはどうでしょうか。また、定期的に大会を開催することにより、毎年周辺施設の利用が増え、地域の活性化にもつながると考えます。以上です。

○議長（栗村 凌君） 10番、入江瑛梨議員。

○議員（10番 入江 瑛梨君） 10番、入江瑛梨です。私は、通学路の照明について町長に

質問させていただきます。

駅から学校までの道のりに街灯が少ないと思います。特に夢地橋につながる細い道（役場裏から駅まで）の通学路が、暗くなると危ないので、防犯のためにも街灯をつけて欲しいです。以上です。

○議長（栗村 凌君） 11番、岩崎万季議員。

○議員（11番 岩崎 万季君） 11番、岩崎万季です。私は、町長に学食設置について質問させていただきます。

学食があることで、忙しい朝にお弁当を作らないで済み、親の負担が減り、外から持ち込む必要が無くなるので、学校内のゴミも減ります。学食ができれば、地産地消につながるだけでなく、町の人が働く場所もできます。だから学食をつくってください。以上です。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） 谷口議員の御質問にお答えいたします。

ソフトボールの練習場拡大についての御質問です。

ソフトボール部が男女でグラウンドを共用され、危険であることに、町としてできる支援は、高校近くにある大栄運動場を活用してはと考えています。大栄運動場は、大栄野球スポーツ少年団が、春から秋にかけて水曜・金曜日の放課後、土曜日の午後、そして日曜日の午前中に練習を行っています。これ以外で調整すれば、使用できるのではと思います。使用にあたっては、有料ですが北栄スポーツクラブに加入していただくと、年間を通した施設の計画的な使用ができたり、雨天時の体育館利用など、その他のスポーツクラブが管理する施設・設備も利用できます。

北栄スポーツクラブは、スポーツを通して地域を元気にし、地域における心身ともに健康で豊かな生活の実現を目指していますので、生徒のみなさんに関わっていただけると、町におけるスポーツの振興により有意義な取り組みが行えるのではと考えています。

次に大会を開催できる施設をつくることについてですが、現在、社会体育施設は、町内に運動場、体育館など12か所ありますので、新たな施設をつくることは困難です。今ある施設を有効に活用しながら維持管理していくことが第一と考えています。一昨年も、北条中学校を主会場に中国中学校ソフトボール選手権大会が開催されるなど、大きな大会が開催されていますので、今後も、今ある施設を有効に利用していただければ、十分に定期的な大会も可能と考えているところであります。

続いて、入江議員の御質問にお答えいたします。

通学路の照明についての御質問です。

コナン駅から JR の跨線橋となっております夢地橋までの間の照明ですが、調査してみましたところ全部で7か所設置がありました。それぞれの設置箇所と管理は、駅から北栄町商工会事務所までの間には、北栄町商工会街路灯組合に設置管理していただいている防犯灯が5か所あります。役場裏配電盤近くと夢地橋北側の2か所は鳥取中央育英高校が設置管理されていますが、特にこの区間は鳥取中央育英高校の方しか通らない通路となっています。先ほどの照明の間隔を調べてみましたところ、最大で約90m、平均で約60m離れております。全ての区間で次の街灯を見渡すことが出来ることや、最も離れている区間でも住宅等の建物が点在しており、比較的照明はある区間だと考えております。しかしながら、ご指摘の役場裏と夢地橋

区間につきましては、実際夜間歩きますと、他区間に比べ暗く感じられますので、効果的な照明の検討を行ない、設置に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

続いて岩崎議員の御質問にお答えします。

学食設置についての御質問でございます。

学校食堂の設置に関して鳥取中央育英高校は県立高校であり、県が設置、管理する施設のため、町として設置につき言及することは出来ませんが、町としてのスタンスでお答えします。はじめに、県内における学校食堂の設置状況ですが、公立高校では12校に設置されており、私立高校では3校に設置してあるようです。中部地区の高校でも、過去には学校食堂のあった高校もありましたが、現在は私立の倉吉北高のみであります。現在、中部の公立高校に学校食堂が設置されていない経緯は定かではありませんが、谷口議員が言われるように学校に食堂があれば、忙しい朝にお母さんなどが弁当をつくる負担が減り、温かい食事がとれる、学校食堂での食材に地元産の食材を使い地産地消が促進できる、食堂で働く人の職場も生まれるなどメリットや、楽しみもあります。しかし、学校食堂を設置するためには設備投資の費用、設置後の維持管理、食堂事業としての費用対効果など財政面、運営面などでクリアしなければならないことが多々あります。県の食堂の整備方針では学校運営上の必要性が認められる場合は、県が食堂を整備することとなっておりますので、鳥取中央育英高校として学校食堂の設置の必要性を訴え、認められれば整備の可能性はありますので、校長先生に是非お願いしていただき。

しかし、実現までには時間がかかるかもしれません。そこで、弁当作りに関して親の負担軽減とみずからの栄養管理や経済的観念の育成のためにも、皆さんも弁当をつくる手伝いや、みずからがつくるなどに取り組んでみてはどうでしょうか。みずから食べる弁当を、献立から食材の買い出し、調理、弁当詰め、片づけまでを毎日とは言いませんが、曜日を定める、どこかを手伝うなどにより日頃弁当をつくってくださるお母さんなどの負担軽減、感謝の気持ち、食に対する意識の向上、経済観念の育成など得ることが沢山あると考えます。実際、町でも「食育をとおした自立した子どもの育成」を目指して、小学5年生で調理実習し、6年生ではみずから弁当をつくってくる日を設定する「弁当の日」に取り組んでいます。親子で弁当作りを協力しながら取り組むことにより、弁当をとおして親子の絆、コミュニケーションが一層深まるものと考えているところであります。

○議長（栗村 凌君） 谷口涼香議員。

○議員（9番 谷口 涼香君） ソフトボール部練習場拡大についての追加質問をします。

大栄運動場を使うとよいと言われましたが、ソフトボールと野球では、ベースの距離等が違って困ると思うのですが、そのような設備もつくることができますか。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） 大栄運動場であり、小学校に上がるころの下にある運動場ですが、あそこを使ってみてはどうかということでもあります。確かに、今、スポーツ少年団で使っているベースの塁間とソフトボールのベースの塁間と違うと思いますので、それは、その都度設置するということになりますが、印をつけておいて使う時にベースを固定して使うということをしていただければ可能であろうと思いますので、ぜひ考えてみていただきたいなと思います。

○議長（栗村 凌君） 谷口涼香議員。

○議員（9番 谷口 涼香君） これで、ソフトボール部練習場拡大についての追加質問を終わります。

○議長（栗村 凌君） 入江瑛梨議員。

○議員（10番 入江 瑛梨君） 通学路の照明についての追加質問はありません。以上です。

○議長（栗村 凌君） 岩崎万季議員。

○議員（11番 岩崎 万季君） 学食設置について追加質問します。

学食設置についてですが、県と町で協同経営することは考えていただけませんか。一般の人にも食べに来てもらおうと、生徒もあいさつや礼儀が自然と身につくので良いと思うのですが、どうでしょうか。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） まず、県立高校ということで、やはり県の考え方もあると思いますし、もし、町と協同してできるということであれば、町としても考えてみたいなど、こう思うところがあります。例えば、県がそういう場所を設置して、運営に町内の業者さんが入られるというようなことも考えられますし、また、その中に町の食材を使っていくということも当然考えられるわけでありますので、そのようなことができるかどうか、まず、県に確認を取って、それから検討してみたいと思います。ただ、皆さん方が高校で学食が必要ですよと、校長先生に頼んでいただいて、学校としても必要だなということがあれば、協議しながらそういう取り組みもできると思いますので、よろしくお願いします。

○議長（栗村 凌君） 岩崎万季議員。

○議員（11番 岩崎 万季君） これで、学食設置についての追加質問は終わります。

以上で私たちの質問は終わります。

○議長（栗村 凌君） 以上で谷口涼香議員、入江瑛梨議員、岩崎万季議員の一般質問は終わります。次に進みます。

○議長（栗村 凌君） 12番、亀谷直輝議員。

○議員（12番 亀谷 直輝君） 12番、亀谷直輝です。私は、まんが・イラスト系の専門学校設立について町長に質問させていただきます。

絵を描くことに興味をもっている方たちが、鳥取県外に出なくてもイラスト系の専門学校に行くことができるようにしてはどうでしょうか。また、北栄町出身の青山剛昌さんと連携することで、将来有望なマンガ家を輩出することにつながると思います。米子松陰高等学校にはイラストコースのようなもの（アートコース）がありますが、その卒業生たちがイラスト系の専門学校に進学する際に、現状では県外に出ないといけないという負担を減らすことができるため、設立の方向で考えてみてはどうでしょうか。以上です。

○議長（栗村 凌君） 13番、河合亮祐議員。

○議員（13番 河合 亮祐君） 13番、河合亮祐です。僕は、図書館の閉館時間を延長して学習塾を開講する案について、教育委員長に質問させていただきます。

近年、育英生の学力低下が目立ち、家庭学習を習慣化する必要があるので、図書館の閉館時間を延長して、学習塾を開講していただければ利用したいと思っています。本来は帰

宅後に勉強するべきですが、現状はだらだらしている生徒が多いので、学習塾を開講して勉強するべきだと思います。以上です。

○議長（栗村 凌君） 14番、竹歳直樹議員。

○議員（14番 竹歳 直樹君） 14番、竹歳直樹です。僕は、まんが博物館及び美術館の設立について町長に質問させていただきます。

5月18日の日本海新聞の記事に、県立美術館を設立する目処は立っていないのに、誘致ばかりが独り歩きしていることが記載されていましたが、現状はどうなっているのか伺いたいです。さらに、まんが博物館及び美術館が設立されることで、周辺の商業施設にも来客数が増え、利益が出ると思うので、設立の方向で県に強く要望を伝えてもらいたいです。以上です。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） 亀谷議員の御質問についてお答えいたします。

絵を描くことに興味をもっている人たちが鳥取県外に出てなくてもイラスト系の専門学校に行くことができるようにしてはどうか、との御質問でございます。

御指摘のとおり、まんが・イラスト系学科がある県内高校としては、米子松陰高等学校に情報総合科アートコースがございます。このアートコースは、アニメやまんがなど、子どもの頃からのたくさんの蓄積を活かし、デザインの基礎知識や技術を楽しく学ぶコースであり、まんがの描き方やパッケージデザインなどの実習を通して技術を身につけていくことを目的としておられます。また、自分の実力を知るために各種の公募展に挑戦され、中には優秀な成績を残している生徒も多くいらっしゃるようでございます。

一方、お隣の島根県にはデザイン専門学校があるようでございますが、県内にはまんが・イラストに関する専門学校は存在しない状況ですので、専門学校においてさらに技術を磨こうと考えている方は、御指摘のとおり、県外で勉強せざるを得ないことになります。

これに関して、まんが・イラスト系専門学校の設立を考えてみては、との御提案でございますが、財政的な面を含めて町として専門学校を設立することは考えておりませんが、仮に県内にまんが・イラスト系専門学校設立の動きがあれば大いに歓迎したいと思っております。なお、まんが・イラスト系専門学校に入学される目的は、その多くの場合、まんが・イラスト系の職場への就職をお考えのことと思われまます。現在、県西部の米子市内を中心に、まんが・アニメ・デザイン関係の会社が増えつつあります。県内専門学校への入学はできなくても、これらの会社に就職し、実務をこなしながらみずからの技術を磨くこともできると思いますので、そういう道の選択もあるのではないかと考えています。

その他、町においては、本町が青山先生の出身地であることを踏まえて、小学校でイラスト教室、中学校でマンガ講座を開催しております。現在、その成果を中央公民館において展示しているところでございます。このイラスト教室は、参加している児童生徒のみならず、表現力の向上が見られるなど学校の先生にも非常に好評であり、町としても可能な限りその取り組みを応援したいと考えております。

鳥取中央育英高校の生徒の皆さんにおかれましても、教科としてでなくとも部活動や趣味などを通じて、まんが・イラストに親しんでいただき、将来の自分の可能性を試してみることも有意義なことだと思います。

続いて、竹歳議員の御質問にお答えいたします。

県立美術館の現状はどうなっているか、との御質問でございます。

県立博物館は築後40年以上経過しており、雨漏り等の老朽化や資料増加に伴う収納スペースの狭隘化、さらには駐車場不足の慢性化など多くの問題があり、抜本的なあり方の検討が必要な時期に来ている状況にあるとのことでございます。また、近年、県議会決算審査特別委員会報告や監査委員意見などでも、収蔵品の適正保管や現施設の老朽化、十分な駐車場の確保など、今後の博物館のあり方にも言及がなされているようでございます。

これらのことを受け、現在、県においては、県立博物館の現状点検や課題の整理を進めておられ、外部委員で構成される「鳥取県立博物館現状・課題検討委員会」のもとで博物館に期待される機能、果たすべき役割について検討を重ねておられると伺っております。既に4回の検討委員会が開催されておりますが、現状点検結果に基づく課題の整理については、「戦略的な運営体制の整備」「県民との連携・地域への貢献」「多様なニーズに対応した基本業務の展開」の大きく3点について意見交換が行われているようでございます。なお、現時点におきましても、現在地での自然・人文・美術の3分野存続は困難だとしても、どの分野を独立したものとするのかなどについては全くの白紙とのことでございます。

次に、まんが博物館及び美術館が設立されることで周辺の商業施設も来客数が増え、利益が出ると思うので、設立の方向で考えてもらいたい、とのことでございますが、ここ鳥取県中部地域は、洋画家前田寛治、日本画家菅楯彦をはじめとする数多くの芸術家を輩出し、多数の風光明媚な立地条件も持っております。また、鳥取県の中央に位置し、県内各地はもとより岡山県北部とも直結する地理的利便性があり教育文化施設として、また観光施設として大いに集客が望めるものであることから、現在、県中部地域の1市4町の市町長・議会議長が知事・教育長・県議会議長に対して、県立美術館の中部地域への設置要望をしているところでございます。町といたしましては、まずは1市4町で足並みを揃えて、県中部地域への誘致を最優先で考えていきたいと思っております。

なお、現在、北栄町の商工会を中心に、県立美術館そしてまた、まんがミュージアムの誘致を求める署名運動等を行っておられるところでありますが、これはあくまでも商工会の立場でやっておられるということでございます。町のスタンスとしては、まだ、1市4町での取り組みということで、中部への誘致を考えているところであります。

○議長（栗村 凌君） 福光教育委員長。

○教育委員長（福光 純一君） 河合議員の御質問にお答えいたします。

図書館の閉館時間を延長して塾を開講する案についての御質問であります。

図書館は、午前9時30分に開館し、午後6時30分に閉館します。月曜日が休館で、祝日以外は開館としています。図書館の利用で大切なことは、多くの本や資料を通して自分の知りたい情報や知識などに会い、学び、そして実際の生活に活かしていくことだと思います。

一方、塾は学校で学習した内容を補ったり、進学のために入試問題に挑戦したりするところであり、図書館の仕組みとは異なるため、図書館の閉館時間を延長した塾の開講はできないところです。

しかし、図書館は皆さんの学習の手助けともなるところであります。学校で学習した内容や日頃関心を持っていることを、もっと詳しく調べてみたいとか、知りたいことなどについては、図書館を活用すれば解決することもあります。また、図書館司書に相談いただければ、図書館

にない資料・情報などについても取り寄せたり、情報提供するという仕組みもあります。

現在、鳥取中央育英高校の皆さんも放課後、一日当たり10人程度の方が利用され、本を読んだり、学習したりしておられます。これからも、ぜひ、多くの生徒さんが本町の図書館を有効に利用していただき、静かな環境の中で幅広い学びをしていただければと思います。

ところで、御質問の中で家庭学習が習慣づいていない現状を言われました。実は、何と云っても学習の基本は、真面目に、楽しく、意欲的に毎日を生活することであり、そのような生活ができて、その次にどういう方法で勉強するかであると思います。先生方からアドバイスを受けていると思いますが、自分の目標に近づくために学習していくのだという気持ちを持てば、家庭での学習は楽しいものになるはずで、少しずつから良いですので、家庭学習をしなれば一日が終わらない、というようになればしめたものだなと思います。

○議長（栗村 凌君） 亀谷直輝議員。

○議員（12番 亀谷 直輝君） まんが・イラスト系の専門学校設立についての追加質問をさせていただきます。

設立することで、Iターン、Uターンの人が増えるという一つの案だと思いますが、北栄町ではIターン、Uターンの人々を増やすためにどういった方策をしていらっしゃるのでしょうか。以上です。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） イラストの専門学校ができることによって、Iターン、Uターンが増えるということではなく、やはり県外に行かずに県内で学校に行けるということになるかと思っているところですが、そういうものができれば町としてもぜひ応援していきたいと思っております。

また、Iターン、Uターンの人にどういう支援をしているかということですが、取り組みについては、移住相談会というものが大阪地区や東京地区であり、そういうところに出向いて北栄町の魅力を伝えながら、働く場所はこういうところがありますよとか、住まいはこういうところがありますよということを、来られた方に説明しているという状況であります。また、今年の4月からはお試し住宅も作りまして、空き家を改造してそこにきていただきまして、とにかくそこに住んでいただき、そして、北栄町の良さを知っていただく。そして、最終的にはそこに住んでいただくということになる、そういうことに取り組んでおりますし、今、地域おこし協力隊を去年の10月から2名配置しておりますが、都会から来られた方ではありますが、その中で地域の方と一緒にいろいろな取り組みをしていく、また、仕事もしていくという中で、北栄町の魅力を内外にPRしていただく、そしてまた多くの方をそこで引っ張ってくるということも考えているところです。いずれにいたしましても働く場所とか、住まいの場所とか確保しなければいけませんので、そういったところに、また、力を入れていきたいと思っております。

○議長（栗村 凌君） 亀谷直輝議員。

○議員（12番 亀谷 直輝君） 経済的なことや、県の設立規約的な面も考えれば、厳しいとは思いますが、鳥取県や北栄町のPRや人口増加にも少なからず効果があると思いますので、設立の方向で考えていただけたらなと思います。よろしく申し上げます。以上でまんが・イラスト系の専門学校設立についての追加質問を終わります。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） 専門学校を町で設立するということはかなり難しいだろうと、こう思っております。やはり、専門の学校経営者といえますか、そういう方たちに来ていただくということが、設立につながるのだろうと思っております。

例えば、先ほど申し上げました県立美術館やまんがミュージアムということで、商工会の方が署名活動をされているわけでありますが、まんがミュージアムというものができれば、その中に一部するということも可能かなというようなことも考えておりますが、なかなか難しいことをごさいますて、もし、そういう専門学校がこちらのほうに出てみたいということがあれば、町としては大いに支援してまいりたいと考えております。

○議長（栗村 凌君） 河合亮祐議員。

○議員（13番 河合 亮祐君） 図書館の閉館時間を延長して塾を開講する案についての追加質問はありません。

○議長（栗村 凌君） 竹歳直樹議員。

○議員（14番 竹歳 直樹君） まんが博物館及び美術館の設立について、町長に追加質問させていただきます。

先ほど町長は、町としての意見を述べられたと思うのですが、町長個人の意見としては、博物館及び美術館の設立についてどう思われていますか。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） 私といたしましては、やはり、免許センター跡地にぜひ美術館、あるいはまんがミュージアム等誘致したいなど、こう考えていますが、しかし、要望自体が1市4町でとにかく中部にまず持ってきて、こっちにきていただこうと出しておりますので、あまり大きな声でそういうことを言えませんので、大変苦慮しておりますところではありますが、個人的にはやはり、前田寛治という世界的な画家もおりますし、また、たくさん有名な画家もおります。そして、青山剛昌というすばらしい漫画家もおりますので、中部にもってくるという中でそういうことに決まれば、積極的に誘致に取り組んでまいりたいと思います。

○議長（栗村 凌君） 竹歳直樹議員。

○議員（14番 竹歳 直樹君） もし、博物館及び美術館を設立した場合、予算はどこから出ますか。以上です。

○議長（栗村 凌君） 松本町長。

○町長（松本 昭夫君） まず、美術館、博物館については県の施設ですので、やはりそういう建物については県が出されるということになるかと思えます。また、土地等につきましても本来なら県が土地を買ってそこに建てるところですが、北栄町については、今ある土地を提供するというのも一つの方策かなと、こう考えておまして、もしそういうことになれば、これはまた議会の皆さん等とも相談しながら、対処してまいりたいと思っております。

○議長（栗村 凌君） 竹歳直樹議員。

○議員（14番 竹歳 直樹君） まんが博物館及び美術館設立についての追加質問を終わります。

これで僕たちの質問は終わります。

○議長（栗村 凌君） 以上で亀谷直輝議員、河合亮祐議員、竹歳直樹議員の一般質問を終わります。

ます。

-
- 議長（栗村 凌君） 以上をもって本日の日程はすべて終了いたしました。
これにて、平成27年第1回北栄町高校生議会を閉会いたします。
どうもありがとうございました。

午前11時28分閉会

高校生議長あいさつ

- 議長（栗村 凌君） 北栄町役場の皆様、そして議会関係者の方々にはたくさんのご迷惑をおかけしたと思いますが、嫌な顔をせず、細かく教えていただき本当に感謝しています。この議会の場をお借りできたこと、町長との対談の場を設けていただけたことは、高校生議会がきっかけとなって実現できました。貴重な体験をありがとうございました。そして、傍聴に来ていただいた方には、本来の議会のような、締まりのある議会ではなかったかと思いますが、最後まで聴いていただきありがとうございます。今日の経験をもとに、実現できるよういろいろ調べたりしながら、次回につなげたいと思います。

今後も、中央育英高校は文武に励み、校訓「克己」のもと北栄町活性のため邁進していきたいと思いますので、ご支援をお願いします。

本日はありがとうございました。

上記会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

高校生議会議長

署 名 議 員

署 名 議 員